

麦づくりのポイント（播種前・後の管理）

1 はじめに

令和7年産麦は、概ね11月中旬に播種が始まり3月中旬までの低温により、生育は前年より遅れました。6月9日からの長雨までに収穫を終えたほ場では、品質・収量ともに比較的良好となりました。収量・品質を確保するために、**水稻の収穫後の排水対策**や**適期播種**など、基本技術の励行を行きましょう。また、実需者からは**年次変動の少ない安定生産**が要請されています。品質面では、特に**小麦のタンパク質含有率**を9%台に**高める**よう改善が求められていることから、**追肥重点型の施肥体系**など、品質改善に向けた取組みを進めましょう！

2 排水対策の徹底

◎播種前対策

水稻収穫後、**ほ場の外周に溝堀機**などで“**ヨケ**”を設け、降雨後も速やかにほ場外に排水出来るようにしておくほか、**スタブルカルチ**などによる**粗耕起**を**組み合わせ**て行い、ほ場の乾田化を進めましょう！



溝堀機



スタブルカルチ

◎稲わら処置で乾田化

コンバイン収穫後の稲わらをそのままにしておくと、**土壌表面からの水分蒸散**が妨げられます。**水稻収穫後に浅耕**（耕起深**3~4cm**）して、あらかじめ稲わらを**すき込んで**おくと、**土壌表面の乾燥**が進みます。

※耕起が深いと、土壌が水を含みやすくなり、**土壌の乾燥が遅れる恐れ**があります。



浅耕による土壌の乾田化の様子



◎排水溝の設置

播種後は、管理機を用いて、ほ場外周とほ場内の**3~5m**間隔に**排水溝**を設置します。播種後は、雨水が停滞しないように**排水溝が落水口と確実に連結**しているか確認しましょう！



落水口と排水溝の連結

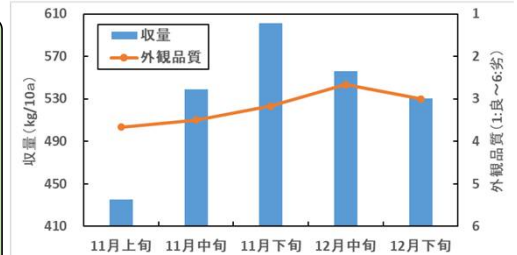
3 適期播種のすすめ

◎適期播種

早めの事前準備（ほ場の排水対策など）による**適期播種**の励行を！
播種時期が遅れると**収量低下**、梅雨時期の降雨による**収穫の遅れ**が原因の**穂発芽**、**倒伏**など**品質・収量低下**のリスクが高まります！

播種適期になり、**土壌水分が適正**になれば、**速やかに播種**しましょう！
※**播種時期が早いとタンパク質の低下**を招きやすいため注意しましょう。

適期播種で収量品質が最高



図「さぬきの夢2023」の播種期と収量及び外観品質（令和4~6年播の3年間平均、農業試験場）

平坦地の播種適期は、**中山間地より、やや遅く**なっています！！

表2 品種別の播種適期と播種晩限

品 種	播 種 適 期(平坦地)	播種適期(中山間地)	播種晩限
イチバンボシ	11月15日~30日	11月10日~20日	12月25日
さぬきの夢			12月10日

4 雑草防除の徹底

◎初期除草剤の散布

古草が残っている場合は、**耕起前に非選択性除草剤**を散布して、**枯らし**ましょう。播種後の**混用散布**では、**古草が土中に隠れているため、効果が不十分**となります。**やむを得ず**、**非選択性除草剤を混用**する場合は、**非選択性除草剤を後から投入**し、**麦類の出芽前までに散布**してください。また、**土壌が乾燥**すると**除草効果が劣る**ため**水量を増やして散布**しましょう。なお、**栽培のしおりに参照**し**飛散(ドリフト)しない**よう適切に使用しましょう。